

【22】

テーマ：人間関係・仲間づくり

タイトル：あなたは子どもにどんな言葉をかけますか？

＜新型コロナウイルス感染症関連＞



【学習資料】

学校が再開して2か月ほど経った、ある日の夕食後の出来事

子ども：近頃、新型コロナのせいでクラスがギスギスしてるんだ・・・

保護者：えっ、一体何があったの？

子ども：誰かが咳やくしゃみをする、

クラスの誰かが咳やくしゃみをした友だちに「あっ、コロナだ。」って言ったり、その人が触れたものに対して、露骨に嫌がる態度をとったりするんだ。

保護者：んー、それは良くないね。まるで「いじめ」みたいだね。

他にクラスで気になることはない？

子ども：そうだな・・・、他には手を洗わない友だちに対して、

「そこまで言わなくてもいいのに…」って思うくらい強く注意したり、マスクをしていない友だちに「マスクがないなら家に帰れ！」って言ったりしていた人もいたなあ。

保護者：そうなんだ。結構厳しいなあ。

言われている子はクラスに居るのがしんどいだろうね。

ところで、あなたはそんな時何かしたの？

しんどい子に声をかけたりしたの？

子ども：んー、何もしていない。できないよ。

保護者：えっ、どうして？

実際に新型コロナウイルス感染症でもないのに、そんな言動は「弱い者いじめ」の何ものでもないわ。

子ども：だって、自分はマスクや手洗いはしているけど、

新型コロナウイルス感染症のことをよく分かっていないし、どう言ったらいいのかわからないし・・・

誰かをかばったり、反抗したりしたら、次は自分がいじめられるかも知れない。だったら、何も言わない方がいいよ。

保護者：そうかなあ・・・

でも、あなたはクラスがギスギスしていて、居心地が悪いんでしょ？

子ども：そう、それはそうなんだけど・・・

この後、あなたは子どもにどんな言葉をかけますか？

【学習のポイント】

- 子どもたちの人間関係における心の声に寄り添う。
- 新型コロナウイルス感染症は現段階では確かな治療法もなく、大人も子どもも誰もが不安な気持ちを抱えながら生活していることを理解する。
- 子どもたちの現状となる背景を探り、子どもたちに寄り添うことができるよう、大人として何ができるかを考え、共有し、連携できる場をつくる。

【すすめ方（90分）】

| 流れ | 分 | 主な活動 | 主な発問 | 留意点 |
|-----|-------------------|--|---|---|
| 導入 | 5 | 1 本研修会のねらいや進め方の確認 ・話合いのルールについて確認する。 | ■本研修会のねらいや進め方について説明する。 ・真面目な雑談 ・「参加」「尊重」「守秘」を確認 | ◆事前にグループ編成（1G4人程度）やテーブルホストになっていただく人を決めておくとう良い。 |
| | 5 | 2 アイスブレイクをする。 ・ステイホーム中のおうちエピソード（良かったor悪かったこと）を自己紹介と併せて紹介する。 | ■自己紹介に併せて、新型コロナウイルス感染症対策でステイホームをされたと思いますが、おうちで起こった良かったことや悪かったこと（しくじり）を1つだけ紹介しましょう。 | ◆良かったことでも悪かったことでもどちらでも良いことをおさえておく。 |
| 展開Ⅰ | 15 (5) (10) | 3 ワールドカフェ（第1ラウンド）をする。 ①ワールドカフェの方法とテーブルホストを確認する。（動かずに残って説明をする人） ②意見交換のお題を出す。付箋に（1枚1項目）思いつくものを書き出す。 ③付箋に書いたものをひとり | ■学習資料を読んで、「保護者として子ども（たち）に、どんな言葉をかけられるでしょうか？」付箋に黒色のペンで書きましょう。 例：「あなたが注意される立場なら、どんなことを考えるかな？」 ■付箋に書いたものをグルー | ◆資料1参照 ◆準備物：模造紙、プロッキー（黒④、赤①、青①）、付せん（黄色1人5枚） ◆付箋をグループ分 |

| | | | | |
|-----|----|--|--|--|
| | | <p>ずつ紹介しながら、グループ分けする。</p> <p>グループ分けしたものをもとに感想を話し合う。</p> | <p>プ分けしながら、感想を話し合しましょう。</p> | <p>けしながら模造紙に貼っていく。</p> |
| 展開2 | 15 | <p>4 ワールドカフェ (第2ラウンド) をする。</p> <p>(1) ①テーブルホスト1人を残し、他の人は別テーブルへ移動する。</p> <p>(2) ②新しいメンバーの自己紹介をする。</p> <p>(2) ③テーブルホストが、第1ラウンドで出た意見を紹介する。</p> <p>(10) ④第1ラウンドと同様の内容で意見を出し合い、模造紙に直接書き込んでいく。</p> | <p>■自己紹介をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前、子どもの学年・学級 <p>■保護者として子ども(たち)に、どんな言葉をかけられるでしょうか？</p> <p>■保護者としてどのようなことが言えるか、どのような態度をとるか、話し合いながら模造紙に追加案を青色のペンで書き込んでみましょう。</p> | <p>◆模造紙をもとに第1ラウンドで出た意見を紹介する。</p> <p>◆記録者を相談して決め、青色のペンで記録してもらおう。</p> <p>◆会話のないグループがあれば、話のヒントを伝える。</p> <p>◆「参加」「尊重」「守秘」のルールを確認しながら進める。</p> |
| | | <p>模造紙イメージ (第2ラウンド)</p> | | |
| 展開3 | 15 | <p>5 ワールドカフェ (第3ラウンド) をする。</p> <p>○第2ラウンドと同様の活動をする。</p> | <p>■第2ラウンドと同様の活動をしましょう。</p> | <p>◆記録者を相談して決め、赤色のペンで記録してもらおう。</p> |
| | | <p>模造紙イメージ (第3ラウンド)</p> | | |
| 展開4 | 15 | <p>6 ワールドカフェ (第4ラウンド) をする。</p> <p>(1) ①テーブルホスト1人を残し、他の人は最初のテーブルへ戻る。</p> | | |
| | | <p>模造紙イメージ (第4ラウンド)</p> | | |

| | | | | |
|-----|-----------------|---|--|-------------------------------------|
| | (2) (12) | ②テーブルホストが、第3ラウンドまでに出た意見を簡単に紹介する。 ③グループの中でそれぞれがどのような感想を持ったか意見交換する。 | ■模造紙に書き込んである内容・事柄について思うこと、他のグループに行って感じたことなどを出し合いましたよう。 | ◆意見の良し悪しではなく、保護者としての思いを共有する。 |
| まとめ | 12 (10) | 7 ファシリテーターがまとめをする。 ・資料を紹介する。 | | ◆学習者の状況に応じて参考資料として資料2、資料3、資料4を配布する。 |
| | | <p>資料2 「子どもの権利条約」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生きる権利を守るために私たち保護者がしなければいけないことがあります。 <p>資料3 「いじめの構造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の中の自分たちの位置を確認しましょう。無関係な人はいません。御家庭の子どもたちの位置も意識しながら私たち保護者がいじめを放置しない関係性を築いていきましょう。 ・子どもたちが自分自身を大切だと実感でき、安心して自分の意見が言えるような環境をつくるため、私たち保護者同士の話し合う機会、コミュニケーションを大切にしましょう。 <p>資料4 「新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症は現段階では未知のウイルスで、誰もが不安な気持ちになります。「偏見や差別による感染症拡大のメカニズム」を見ていただくと大人でも不安になれば思考力や判断力が弱まり、誰かを責めたり排除したりする気持ちを抱いてしまうこともあるでしょう。 ・子どもたちであればなおさらですが、新型コロナウイルス感染症と付き合いながらの生活は大人も子どもも初めての経験です。だからこそ大人（保護者）が子どもを上手にリードして差別や偏見、いじめを防ぎ、自他の人権を守るための取組を行うことが必要です。 ・「正しい知識を得る、そして伝える」、「多様な価値観に触れながら自身を振り返る」、「不安な時は信用できる誰かと話をする」、「子どもの声に耳を傾け、時には子どもに自分の意見も聞いてもらう」、そんな生活を大人も子どもも心がけたいですね。 | | |
| | (2) | 8 ふりかえりシートに記入する。 | | ◆テーブルホストが、自分の感想を言ってもよい。 |

<ワールドカフェとは?>

「ワールドカフェ」は、カフェでの会話をするように、気楽な雰囲気の中で意見を出し合います。

また、時間を区切って他のテーブルに移動し別の人たちとの会話を楽しむことができます。

流れは、まず第1ラウンドでは、現在のテーブルで約15分間話し合いをします。

第2ラウンドで、テーブルホストはそのテーブルに残って、それ以外の方はそれぞれ別のテーブルに移動して、新しいメンバーで話し合いをします。(約15分間)

第3ラウンドで、また、テーブルホストはそのテーブルに残って、それ以外の方はそれぞれ別のテーブルに移動して、新しいメンバーで話し合いをします。(約15分間)

第4ラウンドで、最初のテーブルにもどり、最初のメンバーで感想などを出し合います。

そして、最後に全員でわかちあいをします。

テーブルホストの役割・・・

- 1 はじめのグループから動かず、そのグループに残ります。
- 2 新しいメンバーに、模造紙に書いてあることなどの説明をしたり、質問に答えたりします。(簡単に、簡潔に)
- 3 グループの一人だけが話してしまうことがないように配慮します。
- 4 話し合いのルールを確認します。

子どもの権利条約のあらまし

我が国が平成6(1994)年に批准した児童の権利に関する条約(子ども権利条約)では、子どもにかかわる全てのことは、子どもにとってもっともよいことは何かを考えて行われなければならないと定められています。

また、子どもの持つ権利が約40条あげられていますが、それらは以下の4つに大きく分けられます。

生きる権利

- 防ぐことのできる病気などで命を奪われないこと。
- 病気やけがをしたら治療を受けられること。



育つ権利

- 教育を受け、休んだり遊んだりできること。
- 考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができること。



子どもの権利

守られる権利

- あらゆる種類の虐待や子どもの幸せを奪って利益を得るようなことから守られること。
- 障がいのある子どもや少数民族の子どもなどは特別に守られること。



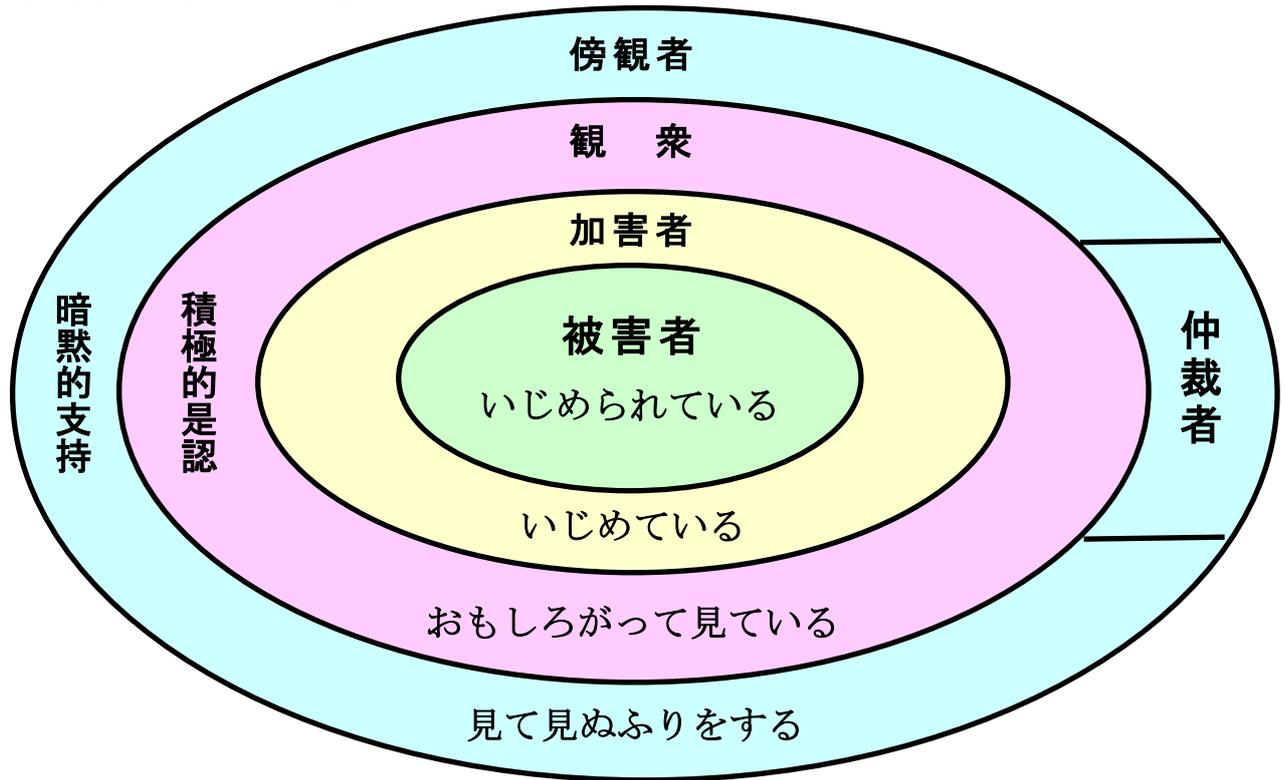
参加する権利

- 自由に意見を表したりすることができ、子どもの発達に応じてその意見が考慮されること。
- 集まってグループを作ったり自由な活動をしたりできること。



「PTA人権研修会のための人権学習プログラム集より」
(平成22年度鳥取県人権教育調査研究委員会作成)

(参考) いじめの四層構造



いじめ集団の四層構造モデル 森田洋司氏

- ・日本の子ども（集団）は、傍観者から仲裁者となる力をつけていくことが課題としてあげられます。
- ・「いじめ防止対策推進法」（平成25年9月施行）で、子ども、保護者に対してもいじめ問題への関わりが規定されました。いじめを子どもの責任だけの責任とすることなく、子どもがいじめに向かわないようにするために、常日頃から家庭でも「いじめは絶対にしてはならない」と指導することが求められます。

鳥取県教育委員会事務局ホームページより

○『子どもでもわかるように「いじめ防止対策推進法」を解説』から一部抜粋 碓井真史氏

第2条 いじめの定義

いじめとは、子ども（児童生徒）が、ある子どもを心理的、物理的に攻撃することで、いじめられている子の心や体が傷ついたり、被害を受けて苦しんだりすることです。インターネットいじめも、いじめです。（「普通の子なら、このていどやられても平気だよ」は、言い訳になりません。この子が傷つけば、いじめです。）

第9条 保護者の責任

お父さんやお母さん、子どもの保護者は、子どもを教育する責任があります。子どもがいじめをしない子に育つよう、努力します。自分の子どもがいじめられたときには、子どもを保護します。また、学校などが行ういじめ防止活動に協力するよう努力します。

資料4：表面

【中学校・高校用】

新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療関係者、社会機能が止まらないように働く労働者、感染者や回復者、これらの方々の家族等の尊厳を傷付ける行為について多くの報道がなされています。このような偏見や差別につながる行為は断じて許されないものです。また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷もあってはなりません。

これまで、ハンセン病問題やHIV感染者への偏見・差別、さらには福島第一原子力発電所事故により避難した児童生徒へのいじめなど、正しい知識や理解の不足、根拠のない思い込み等により、人々の人権が侵害されてしまう事象が繰り返されてきました。

新型コロナウイルス感染症の問題に直面している今こそ、自分の人権も他の人々の人権も大切に作る行動について一人一人が考え、実践しましょう。

偏見や差別による感染症拡大のメカニズム

偏見や差別が広がると、自分自身の感染を疑った人がそれを隠すようになり、結果として感染症の拡大につながる。

新型
コロナウイルス
感染症

未知のウイルスで、ワクチンも開発されていないため、不安な気持ちになる。さらにうわさ話やSNSの情報等によって不安が大きくなる。

偏見
差別

不安

不安が恐れとなり思考力や判断力が弱まる。ウイルスを遠ざけたいという気持ちから、特定の人たちに「危険」というレッテルを貼り、責めたり排除したりすることで安心感を得ようとする。

問題解決のために、わたしたちに何ができるでしょうか。

自他の人権を守る行動が感染症拡大防止にもつながります。

▶ 不安な気持ちに向き合しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、他の感染症に比べて分からないことが多く、誰もが不安な気持ちになります。さらに、メディア等から得た情報によって、その不安が具体性をもって大きくなったり、恐怖に変化したりすることもあります。

まずは、一息ついて今の状況を整理し、自分の気持ちや態度を振り返ってみましょう。情報収集する時間を短くし、自分がリラックスできると思うものに触れ、不安をコントロールしましょう。また、信頼できる大人に自分の気持ちを聞いてもらうことも大切です。

▶ 偏見や差別につながる行為は絶対にやめましょう。

新型コロナウイルス感染症は、無症状の人もいることから、どこで、誰から感染したか分からない場合も多く、誰でもかかる可能性があります。感染した本人を責めることはできません。

特定の人たちを科学的根拠もなく責めたり排除したりすることは偏見や差別につながります。絶対にやめましょう。

うわさや根拠のない思い込みでなく、公的機関等の信頼できる情報をもとに行動することが重要です。また、感染者やその家族、医療関係者等の状況や思いを自分のこととして考えることも大切です。

▶ インターネット上の情報に注意して、情報を発信する行為に責任を持ちましょう。

インターネット上には不確かな情報が数多くあります。そのような情報やうわさ話を信じてまわりの人に言いふらしたり、SNSで発信・拡散したりする行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷等、人権を侵害することにつながりかねません。

情報を発信する自分の行為に責任を持ちましょう。